

小林防火服(株)創業一五〇年に 安藤東消防次長、長谷部渋谷区長迎え祝賀会 ウエスチンホテル東京にて盛大に開催

防火服の名門かつ専門メーカーである小林防火服(株)小林寿太郎社長が、この度、めでたく創業一五〇周年を迎えた。当社の創業は実に江戸時代に溯り、慶応三年(一八六七年)である。消防関係業界では日本で最も古い会社である。現在の小林寿太郎社長で六代目となる。

創業は初代の小林久蔵氏が江戸下渋谷村(現在地)にて刺子半纏を製造して以来、現在まで防火服専門に営業をつづけてきた老舗であり、全国の消防機関での信頼も厚い。

よって、当社では、この創業一五〇周年を記念しての祝賀会を去る十月十九日正午より、目黒区三田一丁目のウエスチンホテル東京「楓の間」にて開催した。当日は多くの来賓、出席者を迎えた。

消防機関からは、東京消防庁から安藤俊雄次長、森住敏光救急部長、阿出川悟



小林寿太郎社長の挨拶



安藤俊雄東京消防庁次長の祝辞



大勢の出席者で盛大に開催された祝賀会

火服の一五〇周年祝賀会にご参列いただきまして誠にありがとうございます。本日は東京消防庁の安藤俊雄様をはじめ多くのご来賓にご臨席賜りました。厚くお礼申し上げます。

今日、この日を迎えられましたのも本日こちらにいらつしやる皆様と、歴代支えていただいた皆様のお陰です。本当にありがとうございます。

弊社の原点は一五〇年前、天保二一年一八六〇年に越後長岡より、初代小林久蔵が旧渋谷村の街道筋に在を持ちました。二代目竹次郎が足袋屋に修業に行きました。その後二三歳の時にこ恵比寿の地で足袋屋をはじめたのが始まりでございます。

そして明治十九年に警視庁消防部ができて、当店も街道筋にあったものですから、当時のご用係の主任がたまたま店の前を通りかかって、お店に入りまして、ここは信用ができそうだといいことで小林刺子店に刺子を注文するようになったということが警視庁ご用達になった始まりでした。

その後、三代目菊太郎が引継ぎまして機械織刺子を進めてまいりまして、警視

庁消防部に納めました。

そして刺子から制服が次第に洋服になるというところで洋服の修業に出て、昭和一二年に小林洋服店を作りまして、その後、学生服を作り、テラー小林として現存しております。

菊太郎の三男になりますのが私の祖父の小林喜代治でございます。喜代治がお店を継ぎまして、近代消防服の開発に乗り出し、昭和三十六年に小林防火服株式会社に社名を変更しました。

その後、昭和四十四年に喜代治が亡くなった後、父小林虎太郎が社長に就任しました。父の弟、小林寛治郎元専務や姉達がお店を守り発展させてくれました。

平成十七年から不肖私、小林寿太郎が代表取締役社長を務めさせていただいております。

一族の歴史を見ますと、変化に乗っていつて時代に合わせた修業をして、勉強をして、仕事を作り出してきたということに学んで、私達も今年一五一年目になります。変化を恐れずに社員一丸となつて新しい挑戦をしたいと思います。

皆様のご支援がなければ立ち行けません。今日、この席をゆつくりしていただき私共により一層のご支援をいただきたいと思ひます。本日は時間の許すかぎりごゆつくりとお話し下さい、どうもありがとうございます。

次に来賓祝辞として、安藤俊雄東京消防庁次長が左記の祝辞を述べた。

安藤東京消防庁次長祝辞

「小林様とは東京消防庁も一三二年にわたるお付き合いとなります。明治十九年に警視庁消防部ができてからということになります。

小林様には防火衣、防火帽の改良には時々に応じて新しいものを提案していただいております。東京消防庁で納入して

消防装備も国際化が進んでおりまして

ISOの規格の制定という動きがあります。それに対して、欧米とアジアでは体格、体力、気候、建物の構造も違います。その中で活動の実態も違います。国際規格を定める中で大切なことは、日本の消防隊員が実際に現場でいかに安全、なおかつ行動しやすい防火衣になっているかということが大事です。その中で小林様は日本の代表団の団長として精力的に活動していただいております。

そしてヨーロッパ主導から日本主導の規格となるよう活躍していただきました。ここで小林様はじめご協力いただいた皆様にお礼申し上げます。

消防装備の発展ということで今、どんな新しい技術ができております。これからも新しい技術を取り入れていただいております。後、今後はますますのご発展を祈ります。

小林様におかれましてはこれからも豊富な知識と経験を生かされ消防装備の向上にご協力をお願いします。今後のますますのご発展を祈ります。

つづいて、新井理夫(株)アライヘルメツト代表取締役、長谷部健渋谷区長、大津ひろこ東京都議会議員がそれぞれ、小林防火服のその歴史とこれまでの社会の安全に貢献した功績を称え、今後のますますの社の発展を祈つた。

白岩帝国繊維社長が乾杯
ここで消防業界を代表して、白岩帝国繊維(株)代表取締役社長が「小林防火服さんはこれまで社会の安全と安心のため尽されてこられました。先ず消防職団員の安心は防火服です」と述べ乾杯した。

満席の会場は正に祝賀ムードに包まれ懇談が行われ、最後に濱島光男小林防火服(株)常務取締役のお礼の言葉と安井一弘同営業部課長の中々めでたく閉会した。